

源にというところに重点を置いておりますので、14番の海の豊かさを守ろうというところが、あえて一つ挙げればそこになるかなというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。

新たな事業展開によって地域のつながりが薄れることのないよう、島づくり継続に向けて、見えない未来を現実置き換えて、しっかりと事業を進めていただきたいと思っております。

先般の市長選挙に投票した18歳の高校生との話を紹介いたします。

今回の市長選では、将来、未来の対馬を導いてくださる候補者に投じた。と。本当に涙が出るような回答をいただきました。

このようなお話を頂戴しておりますので、将来、未来、強い気持ちで、強い心を持って市政を4年間運営していただくよう切にお願いをして、本日の質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（初村 久藏君） これで、伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時5分からといたします。

午前10時49分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） こんにちは。9番議員、会派市民協働の脇本啓喜です。

比田勝市長におかれましては、3期目の当選を果たされましたこと、お祝い申し上げます。3期目は、市民自ら市民の拒否反応があっても将来的にはやらなければならない案件に対しても、市民に丁寧な説明を尽くし、果敢に挑まれるよう強く求めます。3選決定後すぐにあえてこのような指摘を行うのは、これまでの2期8年間、特に2期目はコロナ禍であったこともあってか、市民の意見を市政に反映させようとの取組不足であったと私は感じているからです。今回は、その代表的事案である中対馬病院跡地利用と上対馬病院建て替え地選定について、主に市民協働の観点から通告に沿って質問します。答弁によっては自席から再質問させていただきます。

大きな1番、市民協働の普及推進について。

（1）就任2期8年間の市民協働に関する普及実績について、市長の答弁を求めます。

（2）今後の市民協働普及推進策について市長の答弁を求めます。

大きな2番、今後取り組むべき市民協働事業の提案について。

(1) 耐震基準に適合した廃校の設計図等をデジタル化して公表したり、先週しまづくり推進部が廃校利用に向けたフィールドワークを実施するなど、廃校跡地の有効活用に努めていることは一定の評価をいたします。しかし、この中対馬病院跡地利用を単なる二階建てへの市営住宅の建て替えに終わらせては、あまりにももったいないと思います。1ヘクタール以上もある更地の公有地は今後なかなか現れないでしょう。

コンパクトシティ計画を念頭に置き、大幅変更する考えはないか、市長の答弁を求めます。

(2) 市民への説明会が一度すら開催されることなく、さきの12月定例市議会の閉会前の市長挨拶中、唐突に上対馬病院建て替え地の決定が市長から発表されました。

①長崎県令和6年度一般会計当初予算に、対馬市近海を含む海底活断層調査予算約1,000万円が計上されています。津波による被害予測等も調査されます。しかも調査目的として「ライフライン被害」も明記されています。その調査結果を待って建て替え地を海拔ゼロメートルの比田勝港国内ターミナル背後地とするか否か決定すべきだと私は思います。令和6年度から設置される予定の北部対馬まちづくりの協議会でも検討してはどうでしょうか。市長の答弁を求めます。

また、市長は厳原港と比田勝港を統合的に活用して、貿易振興に取り組むと宣言しています。当該建て替え地と選定された比田勝港国内ターミナル背後地を貿易振興を図る拠点として整備する考えはないか、市長の答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 脇本議員の質問にお答えいたします。

まず1点目の市民協働の普及推進についての2期8年間の普及実績及び今後の普及推進策については関連がありますので、併せて答弁させていただきます。

まず市民協働で取り組むべき重要なことは、対馬のあるべき姿を設定共有し、あるべき姿に向かって協力し合い、取り組んでいくことでございます。そのための指針として、対馬市総合計画並びに対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定において市民団体や多くの公募委員の方に参画をいただいております。

また、これまでの地域審議会を改め、対馬市しまのみらいづくり懇話会を令和3年度に立ち上げ、年に1回開催しております。これは、市内の有識者や団体の中から、おおむね45歳以下の比較的若い方に参画していただき、対馬の将来に向けての意見交換会を実施しているところでございます。

その中で市民の皆様方にも委員に就任していただき、総合計画においては、総合計画等審議会を開催し、また対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては総合戦略推進会議を毎年開催し、分野別計画の事業概要や取組内容について、目標に対する効果検証や評価いただいた意見をもとに、各種事業ごとに継続・廃止・見直しなど、次年度以降の施策に反映させているところで

ございます。また、市民基本条例第17条において、「行政評価を実施し、施策、事業等に反映させなければならない」と規定しており、このことから、年1回市民基本条例推進審議会で各種計画及び施策の内容、取組状況、目標数値に対する評価及び課題解決を含め、次年度の計画の取組予定の報告を行っております。

自らの評価としましては、市民と行政との協働を念頭に、各委員の皆様の御意見をもとに、それぞれの計画において目標達成に向けた施策ができたものと考えております。

今後も情報共有を行い、目標達成に向けた施策の課題や多様化する市民ニーズの的確な対応を行うため市民の発想や想像力、得意分野を生かした御意見を伺い、行政運営を進めてまいります。

次に、中対馬病院跡地利用計画を単なる市営住宅の建て替えだけではなく、コンパクトシティ計画を念頭に置き、計画を大幅変更する案についてでございますが、本用地の活用経緯につきましては、建て替え時期に直面しております難知地区の3団地を集約し、現在入居されている方を優先に、居住環境を整え、安全で快適な住まいを長期間にわたって供給するという公営住宅の建て替え目的に沿った整備を図るものでございます。

また、公営住宅におきましては低額な家賃を必要とする方のため、入居する方に所得制限を設け、低料金で住宅を供給する責務もございます。それらを踏まえ、建て替えにより増える家賃や共益費の負担を少しでも軽くするため、低層階で60戸の入居が可能な配置計画とし、併せて必要とする公園や集会施設の配置も考慮しているものでございます。

現在までの進捗でございますが、本敷地面積が1万平方メートルを超えるため都市計画法第29条第2項に基づき、開発行為の許可、また建築確認申請等の法手続を行い、工事につきましては前面市道の改修や防火水槽の設置等を進めているところでございます。

コンパクトシティにつきましては全国的に直面している人口減少を考慮しますと、私も「コンパクトシティ」プラス「ネットワーク」の考え方や必要性を感じているところでございます。しかしながらコンパクトシティは、議員も御承知のこととは思いますが、1つの箇所に集約し完結するものではなく、ある一定の地域で役割などを検討し、規制や制限を設け、居住区域や都市機能を有する区域などを設定し、地域の中心部に誘導しようとするものでございます。それには、地域の御理解や御協力が必要となりますので、今回当区域において短期間での計画設定は困難なものと考えており、今後、地域の方々の御意見を注視しながら、取り組むべきものだと思っております。重複する答弁となりますけれども、入居者の負担軽減、日照時間等の住環境、必要な公園や集会所の整備、また、開発行為等の許可など、総合的に考慮をしますと、現計画での実施が良好な施設配置であると考えております。

次に、今後取り組むべき市民協働事業の提案についての上対馬病院建て替え用地関係でございますが、上対馬病院の建て替えにつきましては、老朽化に伴う建て替えであり、今回の建て替え

用地の選定に当たっては、市や関係者だけで候補地を選定するのではなく、地域住民皆様の御意見を伺うため、昨年10月に上対馬町及び上県町にお住まいの世帯主を対象に地域住民アンケートを実施することで、なぜ上対馬病院の建て替えが必要なのか、また市がどの場所を候補地にしているかなど、各候補地の利便性及び課題等をお示しさせていただき、大変多くの回答をいただきました。

アンケートの回収率は40.7%でございました。その中でも、比田勝港国内ターミナル背後地が47.3%と最も高く、多くの地域住民の皆様が切望されていること、当該地域の網代地区で説明会を開催し、賛成をいただいたこと、また、十分な面積を確保することができることや、それにより自由度の高い設計が可能であることなど、総合的な判断により比田勝港国内ターミナル背後地に決定いたしました。

建設地決定後、長崎県病院企業団と上対馬病院建設に向け、今後のスケジュール確認等のため第1回目の事務レベル協議を2月に実施したところでございます。

候補地選定を一旦白紙撤回してはどうかとのことでございますが、12月に候補地を決定した現在の建て替えのスケジュールでは、令和10年3月の開院に向け順調に建設が進んだとしても、約4年の月日がかかります。今から新たに候補地を再度見直すとなると、さらに月日を要することから、一層老朽化が進み、令和6年度には耐用年数を迎える病院施設の現状を考えると、一度白紙に戻すということは考えておりません。

一日でも早く開院することが地域住民の皆様のお安心安全につながると考えておりますので、今後も関係機関と連携し、上対馬病院建設に向けて取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） まず、市民協働の普及についてですが、市が企画立案していること、審議会等を開催していることは、予算書とかいろんなことで分かっています。私が答弁を求めたのは、実績報告です。つまり成果につながった事例です。成果を上げるには失敗はつきものです。むしろ、実践を生かしブラッシュアップを繰り返すことが大事だと思っています。成果が乏しいのは市民協働の理念が市長を初め島内に普及していないからであり、市民協働プロジェクトの実践不足が原因だと思います。私も市民協働の理念普及にこれまで以上に取り組んでいきたいと思っています。

続けて、次に、市営住宅建て替え事業について再質問します。

近隣市営住宅在住世帯に聞き取りを実施するのみで、地域住民の意見を十分に反映しているとは言えないと思います。

市長は先の市長選挙において市民みんなが主役をスローガンに選挙を戦いました。当該市営住

宅建設事業計画の進め方は公約と矛盾していると私は思います。私は自治体のやるべき仕事は大きく分けて2点で、1つは住民サービスの充実と、もう1つは自治体自ら金を稼ぐことだと思います。自治体が金を稼ぐ手段の中で現在最も欠けていることは生産性の向上であり、資産回転率を上げることだと私は認識しています。

以下、白壁賢一さんという山梨県議会議員のホームページ投稿を少し加筆修正したものを紹介いたします。

民間企業は、生産性を非常に重視します。それは、自治体と違い生産性の落ち込みは企業の破綻を意味するからです。自治体の生産性とは、毎日の公務員の作業能率や予算の無駄遣いチェックなどのフローの生産性に目が行きがちです。しかし、昨今の厳しい財政事情から、人も金も投入が抑制されており、以前に比べるとフローの生産性はおのずと向上しつつあるため、今後の課題はむしろストック、つまり自治体が持つ資産の回転率をいかに向上させるかが重要です。つまり、公有地をいかにその自治体のために効率よく活用するかということです。

自治体は、土地、建物、機材、資金等の資産を保有しています。しかし、多くの自治体において、必ずしも有効に使われているとは言えません。公有財産が老朽化されたまま放置されているのは、時代遅れの法制度のために用途転用や廃止が行い難い面もありますが、一番の原因は、公会計が年度単位の単式簿記であるため、出費を費用としてのみ捉えて、投資という感覚に乏しいからだと私は認識しています。今後は、知恵を絞り不要な財産は売却、証券化あるいは民間譲渡すべきだと思います。自治体の生産性向上について、市長の所見を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 質問の意味が私もよく理解できないところでありますけども、まず今の質問の中で、自治体が金を稼ぐことというような意味合いが1つありましたけども、私は自治体は金を稼ぐのではなくて、やはりそこに住民サービスが一番であろうかというふうに考えているところでございます。ただ、公有地の有効活用ということにつきましては、議員と同じ考えでございまして、そういうことで、この公有地をどのような形で有効利用をしていくかということを考えて上で、今回のこの3団地を集約して新たな公営住宅を建てるということに至ったと思っておりますし、まず、ここの中対馬病院跡地に計画いたしましたのも、この3団地の老朽化の具合もありますけども、要は、現在団地に住まわれている方たちが高齢化によって買物、そして病院への交通手段、ここが非常に利便性がなく、遅れているといったことで、こういった方たちの利便性を少しでも高めるためにはやはり病院、そして買物等のスーパー等が近いところに立地したほうが、そういった高齢者の方々のための施策になるという考えのもとから、今回このような計画に至った次第であります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 金を稼ぐということについて少しアレルギーがあるようなので、補足しておきます。今まで自治体が金を稼ぐという感じでいうと、県・国からいろんな予算を引っ張ってくる、それと、その自治体の住民の所得を上げると。それで税収を上げることがメインだったかと思います。しかし、それでは、特に県・国からの補助金等の地方交付税等も減らされてくるわけですから、自ら稼ぐことを考えなきゃいけないのは、私は当然のことだと思います。

先日駐車場の有料化とかそういうことも出ておりました。住民サービスの充実を図るためには、国・県等を当てにするのではなく、自らも金を稼ぐということは重要なことであるというふうに私は認識しております。

それから、後で述べます上対馬病院跡地利用とも関係してくるんですが、両方もう建て替え時期が来ているとか、今住んでいらっしゃる方が困っているのを早くやらなきゃいけない。よくわかります。ではもっと早くから計画すればよかったのではないですか。実際私たちが改選になってすぐの6月の議員全員協議会だったと思います。雞知中学校周辺がいいのか、それとも今回の中対馬病院跡地、住宅建設についてどちらがいいのかという提案があってもう3年も経ちました。それが今切羽詰まっているから早くやったほうがいいという答弁は矛盾があるというふうに思っています。

当時、市長は平成28年の私の一般質問の答弁、CCRC、つまり介護サービス付き高齢者住宅等を対馬に呼び込むことは考えられないのか、コンパクトシティも考えていかなきゃいけないですよという質問に対して、市長は、国境離島新法ももうすぐできるので津々浦々の生活を守ることに努力したい、コンパクトシティはまだ対馬市において時期尚早だと考えるというふうな答弁をなさっていました。

私たちが当選した最初の6月の議員全員協議会では、もともと私はコンパクトシティ推進派なんだということをおっしゃられました。もともとコンパクトシティ推進派であったけれども、まだ、市民に十分浸透していないので、時期尚早だというふうに私の平成28年の答弁はされたのかもしれない。ただ、もう3年前にそういうふうにコンパクトシティ化を図っていかなければならないというふうにおっしゃられたはずなんです。

先日の予算審査特別委員会の中で、市長総括質疑の時も質問いたしました。その際も津々浦々の生活を守っていききたいというふうにおっしゃられました。ただ、対馬市にそれほどの財政的余裕があるのであれば、私だってそういう津々浦々の生活を守りたいということ十分わかります。これが最初冒頭に申し上げた市民からの拒否反応があったとしても、将来を見据えて進めていかなきゃいけないことは果敢に臨んでほしいとお願いしたところです。

では、この市営住宅の建て替えについてですが、現計画では2階建て住宅の1階部分を高齢者

優先として、2階部分に若年層を入居してもらうとの想定ですが、若年層も住宅の耐用年数の内に高齢者となり、不便な生活を余儀なくされることは容易に想像できます。中対馬病院跡地にはエレベーター付き高層階建築を基本とし、介護サービス付き住宅をメインとするコンパクトシティを形成してはどうでしょうか。

当該用地は、対馬病院からも、空港からも、小中学校からも近く、商業集積地でもあり島内で最も利便性が高い地域だと思います。また、対馬の人口分布からも中心に位置します。高層建築内に若年層も入居いただき、一つの自治区を形成することで、人口の島外流出を食い止める大きなランドマークとなり得ると私は思います。

先ほど申し上げたとおり、対馬市に余裕があれば、津々浦々の生活を守りたいというのは私も同感です。しかし、現状を鑑みれば、強制的移住は憲法違反ですが、島内に便利で移り住みたくなるような選択肢地域を用意することが、市民生活の充実や人口減少抑制の有効な施策になると私は思います。

例えば、現在の計画では、路線バスは従来通り川沿いの道路を通ることになっていますが、敷地内まで入って来るコースにして、高齢者や障害者に配慮するコースに変更する等、ノーマリゼーションに配慮する工夫も必要でしょう。はっきり言えば、津々浦々の人口減少を助長したとしても、本土への人口流出を難知地区で食い止めることが、最良の策だと私は思っています。市長の所見を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 総括質疑の折にも答弁したというふうに思っておりますけれども、今回のこの計画も今議員も言われたように、ここ中対馬病院跡は大変便利な場所だということで、高齢者の方々、もしくはいろんな若年者の方にとっても利便性の高い地域だと思っておりますので、こういったところを公営住宅の団地として利用するという事は、これは私は1つのコンパクトシティの考え方の一環であるというふうに考えているところでございます。

そしてまたこの中でバス路線の話までされましたけども、このことについては市のほうでも内部協議いたしましたけども、今現在の市道にバス停もあるということで、このバス停を若干北側に移動させるという計画を持っているところでございますが、団地内までこのバス路線を持っていくということについては、やはりそこに住まわれる方々の交通の利便性を若干損なうのではないかなというふうなことで、このことについては考えてはいないということでございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） やはり利用する方の利便性というのを十分に配慮した形にしたいと思っています。確かに公営住宅を建てることについては私も賛成なんです。ただ建てるとしたら、そこに入る人たちの利便性、それから、対馬市として今後どういった形をつくってい

きたいかというのをもっと表現できるのではないかということを示しているんです。

では、次に、上対馬病院建て替え地選定についてに移ります。時間があればまた中対馬病院跡地に戻りたいと思います。

建て替え地決定の白紙撤回を含めて市長の見解を求めますと言いましたが、白紙撤回するつもりはないという答弁ですが、続けさせていただきます。

当該建て替え地は、津波被害の恐れがあります。当該建て替え地は、目の前が海であり、しかも避難経路となる道路も海沿いで、ほぼ海拔ゼロメートルです。長崎県病院企業団令和6年度一般会計当初予算参考資料によれば、津波対策は現在対馬市と検討中とのこと。津波発生時の病院利用者の避難については何か妙案があるのでしょうか。そもそも、決定と検討の順番がおかしくないでしょうか。

12月からこの3月までに能登地方の大地震が発生して、なおさら津波対策は慎重に検討すべきだと市長も思われたのではないのでしょうか。海底活断層調査の結果、比田勝港国内ターミナル背後地が不適だとなれば、設計予算は無駄遣いとなります。建設用地の嵩上げ費用と比較して、優位なほかの候補地があるかもしれません。例えば、建設期間と耐用年数を考えれば、約50年先までこの施設は利用します。

現在でも、比田勝小学校も比田勝中学校も空き教室が多数あります。今後の少子化を見据えると、近い将来両校がそれぞれの土地に存在する必要性は高いのでしょうか。中学校が小学校に移転して、現在の中学校所在地を上対馬病院の建て替え地とすることも十分考えられると、私は思います。

ほかにも、今の上対馬病院の職員住宅のところもあるでしょう。今の病院建設地を駐車場、あるいは職員住宅にするということも考えられるでしょう。こういったことについて思いが至らなかったのか、そのあたり市長の見解をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず第1点目に津波対策の件でございますけども、確かに今対馬の周りに断層があるといったことで、令和6年度におきまして、県のほうもこの津波等の調査をするということは承知しているところでございます。そのような中、この上対馬病院の建て替え候補地を決定するということにつきましては、先ほども答弁いたしましたように、もう老朽化といいますか、耐用年数が38年ということで来年が39年になるということで、特に配管とか空調設備等において、いつ止まってもおかしくない、そしてまたエレベーターのほうについても大変心配をしているといったことを聞いております。そういうこともありまして、できる限り早い段階で候補地のほうを決定していただきたいということで、病院企業団のほうからも直接伺っていたところでございます。

そこで、こちらといたしましても、民地を購入するとなれば、まだまだちょっと交渉から実現に至るまで時間が要しますので、できる限り市の公有地のほうでどういったところがあるかということで検討をさせていただき、そして上対馬町、上県町の全世帯の方たちにアンケートを取らせていただいた次第であります。

そういうことで、私自身も津波対策につきましても、今後病院企業団のほうもいろいろと考慮されるものというふうに考えておりますし、先ほど議員がおっしゃられた現在の比田勝小学校や中学校のいずれかを統合させてそこに持っていけばどうかというような、そういったことは今現在すぐにできる問題でもございませんし、まずは、老朽化が激しい病院、そこで上対馬地域、上県地域の方たちの安心安全のためには、やはりこの病院建設を計画通り進めなくてはならないという考えのもとから、このような判断をさせていただきました。いわば、私はこのことについては、政治決断、政治判断だというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 確かに政治判断です。ですから、比田勝中学校跡地に造るというのも強大な権力のある市長だから、難しいところでも進めようということでもやろうと思えばやれないことはないというふうに感じております。急ぐからということも大事ですが、これは40年以上も利用するものですよ。とすれば1年間遅れるかどうかということが、40年これを建設しずっと使うこと、その利便性を高めることとどちらが重要性が高いのか、そこはよく比較考慮をして、1年遅れても、ここよりもいいところがあればそこにするという判断も1つの政治判断だというふうに私は思います。

それから、当該建て替え地の決定までの経緯が私は民主的ではなかったというふうに感じております。対馬病院新築移転の際には、市民への説明会が合計3回開催されました。基幹病院と地域病院の違いはあれど、住民説明会を一度も開催することなく市が独断で選定した3候補地の中から各候補地のメリット、デメリットについて詳細な説明も示さず、選択させるアンケートしか実施していません。しかも、今建て替えられる病院を末永く利用する30代、40代世帯のアンケート回収率は2割にも満たない状況で、本当に市長がおっしゃる市民が切望する建て替え地決定と言えるのか私は疑問です。なぜアンケート実施前に住民説明会を開催しなかったのでしょうか。私は、開催不要だとの判断であればその理由を聞きたいと思っております。

もう一つ、当該建て替え地を貿易振興を図る拠点として整備してほしいとの声もあります。2016年に長崎県対馬振興局を中心に対馬の貿易振興を図るための協議会が設置され、実証実験結果も含めたレポートが作成されています。昨年12月の市議会定例議会、大浦議員の一般質問によれば、福岡魚市場株式会社が韓国の水産物の貿易を対馬を中継地として実施したい意向を

表明しているとのこと。比田勝港の開港を目指すと市長は言いながら、どこに保税蔵置場を確保しようと思っていられるのでしょうか。

確かに西泊側も候補地としてはよいと思いますが、私は保税蔵置場設置にとどまらず、保税工場まで比田勝港周辺に建設すべきだと思っています。保税工場は関税などを課さずに外国貨物を加工あるいは製造できます。設置期間は原則として2年間で、製造の都合で延長することも可能です。保税工場に保管している貨物の加工後の輸出品にも関税がかかりません。対馬産品だけでなく、韓国からの原材料を輸入して加工する貿易にも、比田勝港は日本でも最も有利な位置にあるのではないかと私は思っています。大浦議員が前定例会で紹介したプロジェクトにこの保税工場を有効活用できれば対馬の経済に多大な恩恵を与えるはずであり、私は大きく期待できるというふうに思っていますが、市長の所見を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、1点目、説明会を実施しなかった理由ということでございますけども、先ほども申し上げましたけれども、説明会等を実施する時間的にあまり余裕がなかったということで、この説明会はアンケート調査による説明に変えさせていただいたということでございますし、この話が持ち上がった際も、コロナはまだまだかなり拡大していた時期でもございましたし、このようなときに、なかなかそのような説明会を開催しづらかったということでございます。

そして、2点目の比田勝港の国内ターミナル背後地を、貿易振興を図る拠点として活用できないかということでございますけども、背後地の用途といたしましては、現段階では、土地再開発用地及び水産関連施設用地ということでございますが、これは利用計画上の変更は可能ということで、報告を受けているところでございます。

ただし、大浦議員からの質問があった際に、厳原港、そして比田勝港の貿易の関係を今後進めていくときに、まずこの厳原港のほうにおいても、保税蔵置場は新たに申しますか、現在も設けていない。これはエプロン場で代用をしているということ、ここの税関のほうから報告を受けたところでございますし、比田勝港のほうで今後貿易等やっていくということであれば、先ほど議員もおっしゃられたように、西泊の方も耐震岩壁が今整備されてございますので、こちらのほうのエプロン場もかなりの余裕がございます。ここを活用できるのではないかとこのように考えておりますので、ここを貿易振興の拠点としては考えずに、ここはあくまで新たな上対馬病院用の敷地として、計画をしてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今日の答弁では、上対馬病院建て替え用地、それから中対馬病院

跡地利用について、市民に説明する時間がなかったという答弁に終始されたと思います。

私は十分にあったんだと思います。中対馬病院跡地についても、3年前に議会に提示しているんです。そして上対馬病院の跡地利用についても、県の病院企業団議会の中で、3年前からこのことについて、上対馬病院の跡地利用については、市民を含めた中で決定していくような方向性でお願いしたい、ということで、企業長にお願いし、理解を得て、対馬市に選定の委託をした時点で、すぐにでも説明会をしてほしいということ、企業団にも伝えましたし、企業団を通じて対馬市のほうにもお願いしてきたところです。

ですから、この時間がなかったというのは、大変申し訳ないですが、言い訳にしか私には聞かえません。今後重要な計画や執行の事業については、適時検証し、その検証結果の公開にも努めていくということ、この際、お約束いただけませんか。

対馬市観光振興計画も2回の報告会をすと言いながら、1回、しかも当初予算後しかやっていないじゃないですか。そのあたり、市民に誠意ある答弁を求めて、最後の質問にします。市長、よろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も、市民協働をやらないと言っているわけじゃなくて、きちんと市民協働に邁進してまいりますという答弁を、いつもしているところでございますので、その適時、適時に、そのようなことは判断をしながら、進めてまいりたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） これで協本啓喜君の質問が終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は1時5分からといたします。

午前11時56分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 本日、一般質問をする前に、一言申し上げます。

私は今回、この対馬近海で断層がはっきりとしたことで、国のほうから資料を打ち出したのを見たときに、能登半島地震人ごとではない、対馬近海のこの断層がいつかはやってくるなというふうな思いで、島民の皆様、ここにおられる議員の皆様、先般の請願に対して結果は出ましたが、やはり深い学習をすることが、この問題は求められているようであります。

そういう意味で、勉強をすることで簡単に決まるわけではないというふうなことで、心を広く持たれて、私は一つの訴えをしてみたいと、こう思います。